

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900382		
法人名	有信アクロス株式会社		
事業所名	ラブラース樹楽 京都伏見(2階)		
所在地	京都市伏見区南寝小屋町54番地		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念『日常生活を家庭的な環境の下で「安全」「安心」に過ごせるもうひとつの我が家、だれでも気楽に過ごせるもうひとつの我が家』のもと、事業所としては『ひとりひとりを尊重し笑顔をたやみ心温まる日々を楽しく過ごす』という目標をかかげ、ご利用者が毎日ゆったりと生活できるよう心掛けている。
 まだ発展途上のところも多く、ステップアップのため模索中ではあるが、笑い声のあふれる事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市伏見区の西部に位置し、近辺は会社やマンション・畑に囲まれて人通りも少なく静かな環境にある。平成28年10月より、新しい経営主体が「有信アクロス株式会社」に移り、グループホーム「ラ・ブラース樹楽 京都伏見」として継続運営している。「樹楽」では、家庭的なサービスの提供を目指し、利用者様にご家族の家か友人の家を訪れたような、楽しい気持ちで快適に過ごして頂けることを理想として、日々の支援に取り組んでいる。一人ひとりの「思い」を日常生活の中で受け止め、その人らしい生活が円滑に行われるように努めている。家族会と事業所とが協働で入居者を温かく見守っている事が、入居者の「穏やかな笑顔」に繋がっている。一入居者が外国籍の職員に漢字を教えている事例をみても、微笑ましい関係作りを垣間見る事が出来る。人生最後の瞬間を家族・入居者・職員が温かく見送れる事業所は「もう一つの我が家」を実証している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有・統一は常に管理者と職員で、毎日の朝礼及びユニット会議、全体会議等で再三確認し実行している。	本社(有信アクロス株式会社)の「思い」に基づき事業所として「ご利用者様も職員も楽しく過ごせるように」「将来、自分の家族や親せきにも紹介したい、入居してほしいと思える事業所を目指す」と示している。更に、各フロアで目標を掲げ、管理者と職員が共有して日々の支援に繋げている。「一人ひとりが笑顔で幸せな日々でありますように」との思いは、穏やかな笑顔で過ごされている入居者と職員の笑顔から読み取る事ができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念ながら工場地域の中にあり、交流は少ない。 運営推進会議に自治会長や民生委員に出席してもらって、地域と事業所の情報交換をしている。	事業所は、周辺を会社やマンションなどに囲まれており、民家が少ないので日常的に地域住民との交流には厳しい環境にある。しかし、運営推進会議に自治会長や民生委員の出席を得て、地域と事業所双方向での情報・意見交換が出来ている。家族会からも地域の情報を得て、地区の納涼祭やフェスティバルなどに参加して地域住民と楽しみを共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会を通じ、地域の行事等は積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、現状のご利用者様へのサービス内容や事故報告等を行い、参加者の意見をいただき取り入れている。	会議には、家族(3名～4名)・自治会会長・民生委員・地域包括支援センター職員と本社代表・管理者などが出席している。事業所より、利用状況・活動状況・事故などの報告を行っている。本社代表からも情報提供を行っており、地域・事業所と双方向で情報・意見交換を活発に行っている。地域の行事の案内や看取りについてなどの話し合いが行われている。	会議は、それぞれの立場で情報・意見交換が行われているが、その中で課題を明確にされる事を望みたい。抽出した課題を検討しその結果を次の会議で報告する事で運営推進会議としての継続性ができ、次のステップに繋がっていく事でしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に連絡を取ることは少ないが、わからないこと等は常に尋ねてアドバイスや指導をしていただいている。議事録を持参したり、地域ケア会議に参加している。	運営推進会議の議事録を持参したり、地域ケア会議の折に情報交換をおこなっている。また、必要に応じて相談しアドバイスを受ける協力体制が出来ている。	

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で年4回全職員に身体拘束についての内部研修を実施している。またユニット会議等でも話し合っている。	身体拘束に関しては「身体拘束廃止に関する指針」を作成している。身体拘束廃止に向けての基本方針や委員会に関する体制など詳しく明文化している。定期的或いは随時、委員会を開催すると共に全職員には全体会議・ユニット会議などで研修を行い周知を図っている。身体的な拘束だけでなく、入居者の行動を抑制するような言葉遣いや声掛けにも充分留意して職員同士でも注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1ヶ月に1回ユニット会議、3ヶ月に1回全体会議で虐待についての討論している。ご利用者様に対しての関わりや業務等、気になることや職員自身が負担に感じることも報告しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加する、伝達研修を実施する等で、制度や取り組みについて学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様・ご家族様にご理解・納得していただけるよう、十分に説明している。また契約について各職員も理解し、ご家族様からの質問に答えられるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は全ご利用者様・ご家族様が参加できるよう案内している。また面会時には、ご意見・ご要望等たずねている。家族会を開催し、他のご家族様の意見や要望、事業所の対応を報告している。	入居者からの要望などは、日々の生活の中で聞き取るように努めている。家族などからも、来所時の会話の中から汲み取るようにしている。また、運営推進会議や家族会なども、意見や要望を聞き取る機会にしている。聞き取った意見・要望は、職員で話し合い改善に繋げている。個別支援に関する要望もあり、一人ひとりの状況に合わせた改善策を検討し解決に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、ユニット会議や日常でリーダーが聞き取り、月2回リーダー会議を開催している。3ヶ月に1回全体会議を開催しており、職員が意見や提案をする場を設けている。また個人面談も実施している。	職員からの意見・要望などは、定期的に関催するユニット会議やリーダー会議、更に全体会議で話し合う機会を設けている。日々の申し送り時にも、意見や提案を出し合っている。壁面の装飾や物品購入・支援に対する気づきなどが出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、環境や条件の整備に努めているが、給与水準に関しては良いとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合わせた外部研修への参加、内部研修の実施等を行っている。また参加したい研修等の希望を聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで他事業所との交流や情報交換の場としている。また同法人の食事会を通じて交流の機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心に寄り添うことを基本として、ご本人の思いや希望をくみ取れるよう関わることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでのご家族様の思いや苦勞等もお聞きし、入居後も関係に大きな変化が出ないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず入居という段階で生活環境が変わることへのダメージを最小限にし、生活習慣をなるべく継続できるように関わる中で「今」1番何が必要かを見極め支援していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様・ご家族様にご理解・納得していただけるよう、十分に説明している。また契約について各職員も理解し、ご家族様からの質問に答えられるよう心掛けている。		

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでのご本人様とご家族様の関係を継続できるように、ご家族様の意向もお聞きしながら、ご本人様にとって必要な支援が実施できるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	退所して別の事業所に入所された友人に会いに出かけたり、以前から良く乗っていた市バスに乗って出かける等、個々に合わせた支援をしている。	馴染みの知人に会いに出かけたり、教え子が来所されるとゆっくり話しあえる配慮をしている。お正月や誕生日には、帰宅される入居者もある。近在の城南宮や乃木神社など馴染みの神社にお参りに出かける支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で個々の特性を把握し、ご利用者様同士のコミュニケーションの橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した時点で、関係もなくなってしまふことが現状ではあるが、行事の案内を送付して事業所に足を運びやすいように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に寄り添う、関わる中で、多方面からご本人を観察し、希望や意向の把握に努めている。職員間で情報を共有し、ご本人の望まれる生活が送れるよう検討している。	初回面談で、本人・家族などから生活歴や心身状況・今後の生活の希望など詳しく聞き取り所定の様式に記録している。趣味や得意なことも聞きとり引き続き継続できるように配慮している。日記をつけたり、編み物をしたり、出来ることを楽しめるように支援している。更に、日々の様子から気づいたことを記録し、職員間で共有して個別ケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に生活歴はケアにあたる者にとって重要な情報であると考えている。馴染みや習慣等についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録に記録し、職員間でも情報を共有し、ご本人の現状を把握するとともに、状態の変化にもいち早く気付くことができるよう努めている。		

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに日々のケアにあたり、ユニット会議でモニタリングができるようケース検討を実施している。ご本人・ご家族の意見や意向、医療に関しての情報も取り入れ計画を作成している。	日々の生活の様子をまとめ、ユニット会議でモニタリングをおこなっている。協力病院の往診医からも情報を得ており、家族などからも意見を得て介護計画に反映させている。色々な立場から検討し、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入し、職員間で情報共有している。ユニット会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームであるため、他のサービス利用は困難であるが、都度検討しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、できる限り有効活用できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医・看護師とは良好な関係を築くことができ、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重しているが、現在入居者全員が協力病院から定期的に往診を受けている。希望により訪問歯科・訪問マッサージを利用している。耳鼻科・眼科などの受診には家族などの協力を得て適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう看護職と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリーや入院中の状況、退院前カンファレンス等、医療機関と情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関を含めたカンファレンスを開催し、ご本人・ご家族への説明を十分に行い、納得した形でターミナルケアが行えるよう取り組んでいる。	事業所として「重度化した場合における対応に係る指針」を作成している。職員には年間研修に「看取り・ターミナルケア」の項目を取り入れている。終末期に近づく医療処置や家族などの希望を勘案して、本人に最も適切な対応方法を関係者で話しあっている。その結果、特別養護老人ホームに移籍された方もあり、事業所で最後の見送りをした方もある。親戚の方達も来所され、家族などや馴染みになった入居者・職員に看取られて旅立たれている。「もう一つの我が家」からの旅立ちとなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成及び定期的に勉強会を開催する等して実践力を養うよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、訓練を実施し連絡網の徹底を行っている。 地域との協力体制は築けていない。	消防署の協力を得て、昼間・夜間を想定して消防訓練を実施している。職員間の連絡網の確認も行って有事に備えている。現在の所、地域住民との協力体制には至らず、事業所単独で行っている。京都市の行う「シェイクアウト訓練」(一斉防災行動訓練)に参加している。備蓄は、米・水などの食料品やポンベ・衛生品などを用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に合わせて、また周りの環境に配慮した声掛け・対応ができるよう努めている。	事業所の名称に「樹楽」と名付け、コンセプトの一つに「日常生活を家庭的な環境の下で「安全」「安心」に過ごせるもうひとつの我が家」としている。一人ひとりの「思い」を日常生活の中から汲み取り、プライドを傷つけないように、プライバシーを損ねない様に言葉遣いや声掛けには充分配慮している。特に、排泄や入浴時の支援には羞恥心を抱かせない様に心掛けている。また、行動を抑制するような言葉にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で働きかけている。		

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができる支援を実践するよう努めているが、時折人員不足のためできていないことがあり反省すべき点である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みもあるので、承諾を得たうえでおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的に重度となり、準備や片付けが困難なご利用者様もおられるが、食事を楽しんでもらえるよう配慮しながら支援している。	日々の献立は、入居者と職員が相談している。事業所内の菜園で収穫したキャベツや玉ねぎなども取り入れて調理している。皮むきなども入居者と職員が協働で楽しみながら行っている。各テーブルに職員が加わり、おしゃべりしながら食事をしている風景があった。嚥下力の低下で流動食を職員に補助して貰っている入居者もあったが、ゆっくりと穏やかな表情で食べている姿が印象的であった。イチゴの季節にはジャムを作ったりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食分、1日分の摂取量が把握できるよう、ケース記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。週1回訪問歯科による口腔内の観察及び口腔ケアを実施。介護職も口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の合わせた排泄用品、排泄パターンの把握、介助方法の検討を重ね、支援している。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、適宜声掛けや誘導でトイレでの排泄に繋げている。排泄用品もその方に最も適した用品を選択して、出来る限り気持ちよく過ごせるように配慮している。紙パンツから布パンツに替わった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療とも連携し、排便コントロールを行っている。なるべく運動や水分・食べ物で自然に排便を促すよう努めている。		

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節の応じた温度管理、ヒートショックにも気を付け、個々に合わせた入浴介助で楽しんでいただいている。	基本的に、週2回の入浴を支援している。その日の体調や気分を配慮して入浴を決めている。拒否される場合には、気分を変えるように工夫して入浴に繋げている。石鹸などは好みのものを使っている入居者もある。しょうぶ湯やゆず湯など季節を感じて楽しんでもらう機会も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床も含め、個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況の確認、服薬時に確実に服薬できる介助方法も検討し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に散歩を重視し、買い物と一緒にいく、ドライブに出かける等、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加したり、外出行事も企画し季節感を味わっていただける外出を実施している。	隣接の会社の前にお地藏さまが安置されており、散歩を兼ねてお参りを日課にしている入居者がある。近隣に生協や百均の店があり、職員と一緒に買い物に出かける機会もある。季節のお出かけも年間行事に組み入れ、花見(動物園)や藤森神社のあじさい見物など出かけている。個人の希望を受け、市バスに乗りこにいたり個別支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは事業所で管理している。希望時には一緒に買い物に行きご本人に支払いをしていただく等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持つてご利用者様もおられ、自由に話されている。		

京都府 ラ・プランス樹楽 京都伏見(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の掃除は力を入れている。トイレがフロアに近いので、臭いに関しても不快感のないよう心掛けている。	玄関や廊下など清潔感があり落ち着いた雰囲気がある。リビングダイニングは広く、2面が大きな窓になっており、適度な明るさがある。隣接して、掘りごたつのある畳の部屋が設けられている。オープンキッチンから職員はリビングでくつろぐ入居者の様子を見守りながら調理している。適宜テーブルを配し、気の合った同志おしゃべりを楽しんでいる風景があった。時に職員も仲間に入って共に楽しみを共有している。壁面には、ピンクッションに数字をはり手製のカレンダーを作り、毎月みんなで数字を入れ替える作業をする。テレビコーナーの前にはソファを配置してゆっくり見ることができるようになっている。不快になるような臭いもなく、のんびり過ごせるような工夫がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席はだいたい決まっているが、自由に過ごしていただいている。気の合わないご利用者様同士のトラブルにも気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境づくり、居室内で過ごされる際は空調管理にも気を付けている。	居室には、馴染みのタンスやテーブル・椅子などが配置されている。家族の写真やお気に入りのぬいぐるみなど置いている。好きな時に見たい番組を部屋でも見られるようにテレビを置いている部屋もある。転倒の危険予防に簡素な部屋づくりがされている。シーツなどリネン類は職員が洗濯し、気持ちよく睡眠がとれるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」の把握に努め、自立した生活を促している。		